

共済会 ニュース

茨城県連共済会第41回定期総会を開催
6月9日（日）いこいの村潤沼にて。討論も活発に。



第41期の定期総会は、新藤理事長（県南民商）の「41年という長い期間活動していれば問題が起きることもあるが、会員の皆様の力も借りながら活動していきたい」という開会あいさつで始まりました。

たかのはし茨商連会長の来賓あいさつ、議案提案のあとは各民商の討論へ。

県南民商からは毎年続けているBBQ交流会の様子が話されました。マイナンバーカードのことが話題になったり、若い参加者からベテランの参加者への声かけで大笑いしたエピソードが紹介されました。

鹿行民商からは、福祉の仕事をしているが訪問介護の事業所が相次いで倒産しており、在宅介護が危機に瀕しているとのお話がありました。政府が訪問介護の報酬を引き下げたことに起因しており、署名も呼びかけられました。

土浦民商からは、心筋梗塞で自宅で倒れ搬送されたHさんが体験を語りました。タバコを吸っていたら手術してもらえないところだったと、喫煙が血管に及ぼす悪影響を語りました。（喫煙者が目をそらしていました笑）

水戸民商からは、生命保険の仕事をしているIさん。大腸がんは早期発見で9割は治るので、大腸がん検診の取組はとても重要と思っている。水戸民商でも検査を受ける人を増やしたいが、ほかの民商はどう検査を進めているのか知りたいと発言。

これを受けて、県南民商からは①複数回の声かけ、配っただけでは検査しない。②検査キットが届いたらトイレに置くように伝える（紛失防止）③対象の会員と仲のいい会員に声かけしてもらう、などのアドバイスがされました。

日立民商からは、北茨城・高萩を担当しているSさん。見舞金、大腸がん検診、カレンダーと全部手渡しするようにしているとの報告。

それを聞いた他の民商の方が「やっぱり実際に会わないとだめか...郵送に頼っては」とつぶやいていました。



頑張ったで賞の贈呈



文責：木田